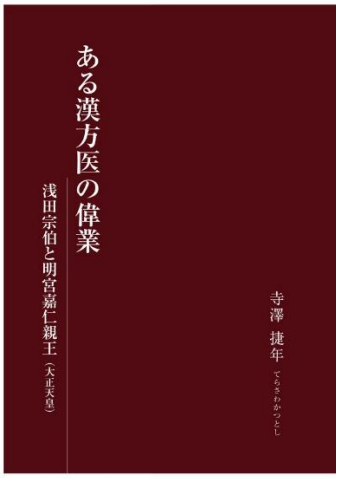
＜著者と語る・サイエンス読書カフェ 06 月 26 日＞

ある漢方医の偉業　浅田宗伯と大正天皇

大正天皇（明宮嘉仁親王）の主治医として活躍したのは、浅田宗伯という漢方医師でした。特に親王の誕生から幼少期にかけての健康状態は深刻で、脳脊髄膜炎などいくつもの危機を乗り越えられたと伝えられています。富山大学名誉教授で、現在の日本の漢方診療の実践と指導に大きな貢献を続けている寺澤捷年さんは、宮内庁に残る「明宮降誕御用日記」などの資料と、浅田宗伯らが残した診療記録などを手がかりに、明治の漢方医師たちが行ってきた救命治療を明らかにしました。抗生剤が開発される以前の西洋医学にはできなかったことを、漢方はどのように処置できたのか、脳内の髄液を排出させ脳組織を守る治療など、手に汗握る記述が同書にはあります。中国、そして日本の伝統医学の歴史にも詳しい寺澤さんのお話しを手がかりに、西洋、漢方、両医学の特色、そしていまできる最新医療とは何かを考えます。

日時；2026 年 06 月 26 日（金）午後 6 時 15 分から
場所；東京・大手町、読売新聞本社 3 階、新聞教室（地下鉄・大手町駅 C-3 出口）
今回も、会場と、オンラインの両方を使って開催します。
参加費；会場 2000 円、オンライン 1800 円
問い合わせ；よみうりカルチャー大手町スクール事務局 （03-3642-4301）
このサイトにも、案内があります。
会場受講： https://www.ync.ne.jp/otemachi/kouza/202604-18011601.htm
オンライン： https://www.ync.ne.jp/otemachi/kouza/202604-18011602.htm